

第24回全国障害者スポーツ大会 「わたSHIGA輝く障スポ」選手団派遣を振り返って

2001（平成13）年に第1回大会が宮城県で開催されて以降、24回を数えた今大会には、本県から個人競技35名を含む総勢75名の選手団を派遣した。

この大会は、競技等を通じて「スポーツの楽しさを体験」「国民の障害に対する理解を深める」「障害者の社会参加推進に寄与する」ことを目的として開催されていることに鑑み、競技力のみを重視するのではなく、できる限り初参加の選手に参加機会を与えるべく、約6割を初参加の選手で構成した。

役員については、各チーム（競技）とも、その競技に精通した指導者が核となり且つ、障がい者（スポーツ）に理解のある介助者等がサポートする体制を構築し、平均すると選手1.5人に対して1名以上の役員を配置し、本県選手団を派遣するにあたっては、選手、役員に対し派遣に係る基本方針を示した上で大会に望み、各競技ともその方針を基に大きな問題もなく、また怪我や事故等もなく、無事に派遣を終えることができた。

本大会への派遣は、例年通り、出発日に岐阜県庁で結団式を行い、多くの関係者に見送られて出発。

期間中は雨に降られる日があったものの、競技は予定通り行われ、結果、41個（金16、銀16、銅9）のメダルを獲得し、3つの大会新記録が生まれるなど、各選手はこれまでの練習の成果を遺憾なく発揮した。

また、これには、選手の決定から練習・合宿、本番に至るまで、競技役員の献身的なサポートがあり、各選手は、競技結果以上に多くのことを感じ、チーム岐阜の絆を深めることができた。

今後も継続的に行われるこの大会へは、本県からも多くの選手が参加の機会を得られるよう努めるとともに、参加した選手にとって実り多き大会となるよう、選手選考から選手団の構成、強化練習や派遣前の準備、派遣期間中、帰岐までの課題も検証しながら、より一層意義深い大会派遣となるよう、議論を深めていきたい。

上記を踏まえ、次年度以降の大会派遣に役立てるため、次のアンケートにご記入のうえ、ご回答ください。

このアンケートは、今後の大会派遣の参考資料としますが、回答者は公表しませんので、自由闊達なご意見をお願いします。